

自昭和十二年十月十二日
至昭和十二年十二月二十日

陣中日誌

歩兵第百五十聯隊



0003

十月三日
晴大

昭和九年七月五日、盛澤橋に於て、我軍、那那軍隊、我軍に對する不法射撃の端を發シ、我軍は、隱忍和平解決の努力を水泡に帰シ、彼に兵力の過剰を改め、諸國の信實に徹底的抗田の企圖に遂に支那事變の果に至リ、皇軍續次征進を就キ、歩兵第五十聯隊も亦八月十四日、勳員下令せられ、次を北支平漢線に出征セリ、

十月十日、第六勳員を令セラル

勳員第一、十月十三日、入、特設聯隊歩兵第五十聯隊編成決定シ、歩兵第五十聯隊補充隊長の陸軍歩兵中佐中、中、重、惠、百五十聯隊初代聯隊長に任じられリ。

午後一時、全將校を將校集會所に集メ、將校を命課行ハル。

勳員第一、聯隊宿營地ハ松本市長と協議、結果既、從來、勳員宿

當シタル地ニテ選テ松本市南部地区ニ變更シ財隊本部ヲ松本市宮村町池上富三郎方トス。

◎聯隊配宿要圖附圖第一如シ

ニ爾今毎日午後五時半ヨリ動員會報ヲ將校集會所ニ開キ動員業務關係者並ニ各中隊長以上集合シ当日動員業務並ニ翌日ノ予定ヲ報告シ以テ動員業務ノ進歩ヲ計ル
三十日到着者左ノ如シ

陸軍歩兵少尉 增澤 可也

陸軍歩兵少尉 滝澤 壽

陸軍歩兵准尉 中條 寧富

陸軍歩兵曹長 小澤 庄三

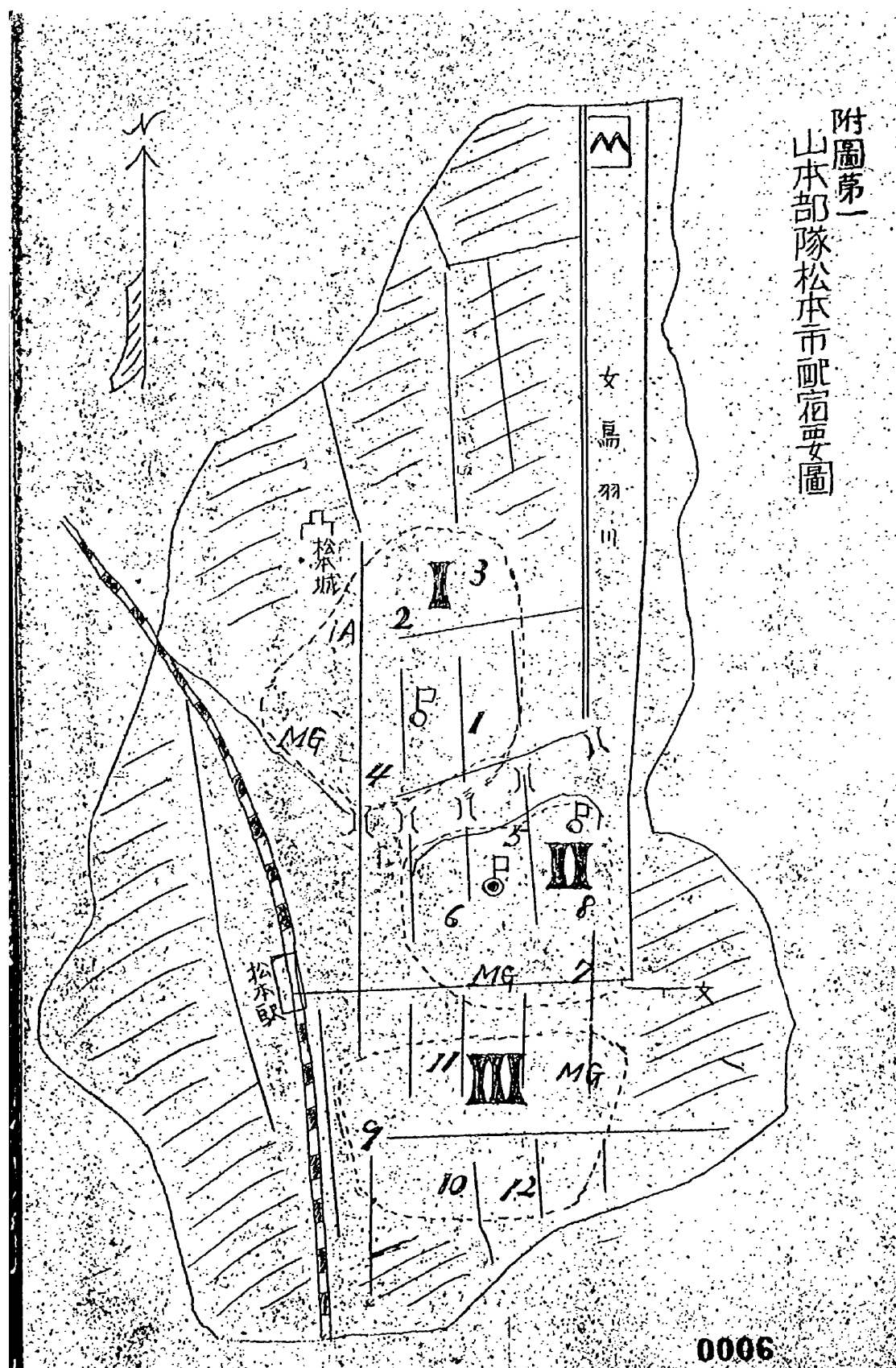
陸軍砲兵准尉 櫻井 米治

一、動員第二日迄召集員三八九名内五名即日歸郷入隊者二八四名

十月十四日
臺大

0005

附圖第一
山本部隊松本市配宿要圖



0006

駐留村野部隊本部

ナリ、聯隊本部ハナニ爲轉入ス
歩兵少佐増澤也、本日到着ス
歩兵少尉小山長義陸軍歩兵學校ヨリ到着ス

日々命令

左記頭書、通リ命課ス

馬匹係 1MG 小尉 伊藤 雄太郎

兵番係 3 小尉 宮尾 喜一郎

被服係 10 小尉 鈴木 庄藏

糧秣係 3MG 小尉 久保 龍郎

舍營命令

十月十四日午後一時
駐留村野五十四聯隊補充隊本部

一、山中部隊ハ本十四日應召員受領後設営者、指示ニ依リ別紙

ノ如ク舍營スベシ

二、舍營日直將校ハ別ニ示ス

三、緊急集合場ハ天主閣内廣場トス

四、給兵ハ會主ノ供饌ニ依ルヘシ

五日課時限左ノ如シ

起床引續日朝点呼

午前六時

衛兵集合

午後三時

朝食

午前七時三十分

夕食

午後五時

診断

午前九時

日夕点呼

午後八時

昼食

正后

六、命令受領ノ時刻ハ別命ニ依ル

各大隊本部歩兵砲隊ノ主任者ハ集合スベシ

七、宿营地取締上ノ注意ハ別紙ニ依ル

八、予ハ富村所地上富三郎方ニ在リ

合營司令官 山中 淳

0008

宿營部隊事務室等值番表

(4)

0009

III						II			
MG	12	11	10	9	Ⅲ	MG	8	7	6
ウ	ヤ	レ	ヲ	ヨ	ニ	カ	ワ	ラ	ル
飯塚保司	吉村文市	島津志津摩	百瀬隆義	市川健三	分都嘉一郎	大津材木店	池上元之助	龍興寺	瀧川龜治
	一七〇三		二一五	一三六七	一二九三	二二七	四五〇	一六八三	一五七〇
長澤町	梅枝所	常勢所	末廣町	中條所	博勞所	宮村所	源地	北源地	小池町
	町郎	嘉一	部電	分		三一四	啓電		
	三九	二	話	常		三	社	式株事	
	町隆	吉	林	平		六	會一(明)話電		
				町源		中			
				山丸					
電話二三四	會社所	分神務	西深	芽所務事		會	分		

別紙
(2)

宿營注意事項

十月十四日

一、各部隊長、部下、監視、掌控、確實スベシ

之レガ爲命令、迅速ナル傳達、實行、監視及實行、報告ヲ怠ル可カ

ラズ、實行、監視ハ煩、足ヲ運ビテ實施スベシ

之ヲ無視及無ク教育ヲ勤、莫ヨリ實施スベシ

即チ左記ノ如キ点ヨリ始ムルヲ要ス

(一) 敬禮、嚴格

(二) 服裝、端正

(三) 姿勢、嚴正

(四) 言語、明晰

(五) 復唱、實行

(六) 足、馴

(七) 射撃

(2)

0011

(4) 突 撃

三、舎營、内務ニ注意スヘシ、市中ハ飲食店等ハ散在スル区域ナリヲ以テ軍紀風紀ニ就テ市民ノ覺悟ヲ買フ如キ事無キヲ要ス
四、防衛觀念、素地ヲ養成スヘシ、特ニ機秘密書類、取扱ヒニ注意スヘシ、秘密保持ニ關シ左記事項ヲ嚴守スベシ

一、命令誡法意、傳達ハ適宜ノ場所ヲ選定シ警戒ノ處置ヲ請スル防諜上遺漏ナキヲ期スベシ

又印刷物ハ輕易ナルモノト雖モ散乱セザル様注意スベシ

二、封書、捺送ハ開封、モノト雖モ之ヲ禁止ス

端書ハ中隊長ニ於テ点検、上捺送セシムベシ

之爲中銃砲隊ハ毎日時刻ヲ指定シ集結、上点検捺印投函スルモノトス

四、一般地方人(面會人ヲ含ム)ニ對スル言語ヲ慎ミ、応召員ニ對シテ

ハ召集者受領、郡度中隊長（代理者）ニ傳達シ置ルベシ
 而會所ハ各中銃砲隊毎ニ之ヲ設ケ、事務室若クハ其（附近）一定ノ場
 所ニ於テ面會セシムベシ、之ヲ惡其、位置ヲ大隊本部、砲銃隊毎ニ
 取經、本部ニ提出スベシ、
 右個所ハ各衛兵所分會事務室ニ通報シ置ルモノトス、
 五左記個所ニ傳染病發生セシニ付、特ニ注意スルヲ要ス
 中町 十月一日 脇ヲブス 清水町 入院中 赤痢
 栄町 十月二日 ツツリヤ 西 堀 赤痢程紅熱
 庄栄町 赤痢
 大火災、對シテハ嚴ニ注意ヲ拂ヒ、苟モ舍營者ニシテ火ヲ失スルガ如キ
 事無クニ要ス
 七面會ハ面會所、於テハ舍主、連繫者、及赤サベルヲ要ス
 ハ軍刀、拳銃等ニ依ル危害予防ニ注意スベシ

九

一、盜難ニ就イテモ亦過去ノ經驗上注意スベキモノアリ、殊ニ戰用品諸品ノ紛失、盜難ニ特ニ注意シ其ノ集積所等ニハ適宜監視者ヲ附スベシ

二、公用外出者ハ銃ヲ帶劍(彈藥盒ヲ除ク)トシ卷脚絆ヲ着用セズ

心中隊以上ノ証明書ヲ携行セシムルモノトス

三、入浴ハ可成中銃砲隊毎ニ一固リトナリテ往復共引率ヲ嚴實ニスベシ

三、營外宿營部隊ハ銃ヲ西門ヲ通過スルモノトス

勤勞部 割表

月日	勤勞部	割表
十月四日	金澤直將校	巡察將校(一)
十五日	久島大尉	2. 赤沼少尉
十六日	臼井中尉	3. 春日少尉
十七日	市川中尉	4. 西澤少尉
十八日	荒井少尉	5. 金井少尉
十九日	吉澤少尉	6. 伊藤少尉
二十日	新村少尉	7. 田中少尉
二十一日	新田少尉	8. 田中少尉
二十二日	新田少尉	9. 田中少尉
二十三日	新田少尉	10. 新田少尉
二十四日	新田少尉	11. 新田少尉
二十五日	新田少尉	12. 新田少尉
二十六日	新田少尉	13. 新田少尉
二十七日	新田少尉	14. 新田少尉
二十八日	新田少尉	15. 新田少尉
二十九日	新田少尉	16. 新田少尉
三十日	新田少尉	17. 新田少尉
三十一日	新田少尉	18. 新田少尉

十月十五日
晴天
於宮村町聯
隊本部

十七日	6 野口中尉	1 浅野少尉	4 中村少尉	12 矢口少尉
十八日	7 関中尉	2 MG 戸澤少尉	3 MG 池田少尉	11 MG 倉田少尉
十九日	11 宮坂中尉	10 中村少尉	5 太田少尉	12 中平少尉
二十日	4 河原中尉	2 有賀少尉	6 竹内少尉	10 三澤少尉
備考	一 交對ハ午前十一時三十分補充隊本部ニ於テ行フ			

一 動員第三日迄召集者六五七名内即日帰郷三十三名アリ

一 入隊者六三四名及徴集馬匹九四頭

聯隊本部ニ五六名轉入ス

一 第一大隊小隊長高澤國松北支隊連山部隊大隊長トナリ之ニ代リ爲
補充隊第三大隊長トナリ鬼事部指揮官トナリ聯隊第三大隊長

田中

日々命令

一 合営衛兵ハ明十六日上番ヨリ各大隊ヨリ差出シ補充隊ヨリ差出シ

0015

一獸醫少尉山崎照門本日應召到着

十月十六日
雨天
於宮村町駐
隊本部

新兵第四日。應召員六十四名、内即日歸郷三十三名、入隊者六二名ナリ。

聯隊本部へ四八名轉入ス。

徵集馬匹九頭、中聯隊本部へ十七頭。

日々命令

一本職軍旗拝受、爲来ル十七日東京陸軍省へ出頭ス。

一左記、者本職、隨行命令。

歩兵少尉

小山 長堯

同

澁澤 壽

歩兵少長

河西 安一

同

上條 安美

同

中根 清雄

同

一 藤森 要平

十七日出發ニ油トシ細部ニ關シテハ別紙(ハ)ニ依ル可シ

十月十六日

十月十六日

歩兵上等兵 増澤 徳治

同 保木 野保

右、若無線電信充電教育、爲宇都宮野砲兵隊ニ聯隊内補
充隊歩砲兵無線教育所ニ分遣命令、依テ本月十六日午後七時
三十分松本駅至依リ出陣スベシ、

十七日夕食ヨリ 同隊、給興ヲ受クヘシ

軍医中尉 戸根 雪松

同 一條 芳久

軍医少尉 外山 龍昌

右、諸三泊ノ予定、以テ十月十七日午前八時迄ニ宇都宮師團軍

医部ニ出張スベシ、

出張ニ關スル旅費ハ陸軍旅費規則第五表ノ倍額トス、

新要點

0018

軍旗拜受ニ関スル細則

一 服装

儀式ノ場合ニ於ケル軍装トス、

但シ聯隊長及旗手ハ正装携行

一十八日ニ於ケルヲ定

午前七時陸軍省ニ出頭(出頭ノ爲自動車ハ準備セズ)

午前九時陸軍省出祭

午前九時三十分ヨリ宮中ニ於テ豫行

豫行終了後陸軍省ニ帰還

晝食(陸軍省ニ於テ準備)

午後一時陸軍省出祭(聯隊長及旗手ハ正装)

午後二時 親 授式

式後陸軍省ニ帰還

夕食(陸軍大臣、招待マール等)

帰還、タリニハ陸軍省ニ於テ一、二等車ヲ準備ス

午後十時四十五分

新宿着

午前六時十分

松本着

一旅費ハ総募一表トシ各隊前度貸金ヨリ支拂フモノトス

列車時刻表

松本

新宿

九、三

↓

六、一

六、二

↑

一、四

十月十七日
曇天
於宮村所聯
隊本部

動員第五日

應召者六十五名、内即日帰郷三三名、入隊者五八二名ナリ

聯隊本部へ二一名轉入ス、

徵祭馬匹九四頭 聯隊本部へ二二頭

日々命令 一月十七日

一本月十七日午後四時四十八分着列車ニテ奥必將閣下末松ノ上

山本部隊將校全員ニ對シ訓示ヲ行ハル

依テ左ノ通り心得ヲベシ

一將校全員ハ午後四時三十分迄ニ將校集會大會堂ニ集合スヘ

シ(營門出迎ヘヲ行ハス)

服裝ハ儀式ノ場合ニ於ケル軍裝(帽子ハ戰帽、背囊ヲ除ク)ト

シ略綬佩用

ス、歸還ノ際ハ馳歩ヲ以テ營門ニ到リ見送りヲナスモノトス、

0021

○各大隊長ハ明十八日午前六時停車場ニ到リ見送りヲナスベシ

訓示

皇軍已ニ北支中支ヲ席捲シテ更ニ南支ヲ壓迫セムトス

然リト虽モ衆ヲ頼ミ疊ニ據ル敵尚暴威ノ戈ヲ收メズ剽ハ國際ノ間暗雲低迷戦ニ豫断ヲ計ガルニ至ル或ハ背後赤化ノ魔手ニカ
リ某國ノ援助ヲ期シテハ倍々抗日ニ狂奔ス

茲ニ本職大命ヲ拜シ新軍旗ヲ奉スル兩部隊ヲ統率シ此ノ聖戰ヲ
第一線ニ参セントス諸君將兵亦勇躍共ニ與ニ武人ノ光榮欣快ニ堪
ヘタル所ナリ

抑々皇國正義ノ宣布東洋和平御宸念ノ皇謨ヲ恢宏シ奉
ラム爲特ニ直接エガ重責達成ノ喫緊事項ヲ要望スルコト左ノ如
シ

一 聖諭、體得具現

ニ 率先犧牲、君前歆華、覺悟

三 將兵鉄石、團結鞏固

右 硝煙彈雨慘烈、間々駐留休養、時々間ハス終始一貫

寸刻モ忽セニスヘカラザル、事ナリ

斯リハ則チ榮光、軍旗ハ新クナル武勲ニ耀キ御稜威ハ中外ハ結

ニ光被シテ世歟、迷夢ヲ照破スルヤ期ス可キノミ、聴キ生立ツ父

母、國秀麗、山河ヲ揺ル国民歡呼萬歳ノ声ヲ

神国日本躍進、秋桜機繋ツテ我等が雙肩ニ在リ將兵克ク

忠能ク誠ヲ誓ヒテ上聖首ニ副ヒ奉リ下統後、熱意ニ對ヘ

昭和十二年十月十七日

奥部隊長

奥

保 吏

十月十八日
小雨後晴
於宮村町岸
部隊本部

軍旗拝受、爲聯隊長山本中佐ハ旗手及ビ誘導將校以下ヲ隨行シ
午後九時三十分歩兵第卅聯隊補充隊長山崎中佐以下多數ヲ見
送り、受ケツ、松本駅發上京ス

昭和十二年十月十八日勤員始マリテ第六日特設聯隊ノ体形殊ト
完成ヲ見ントスルニ當リ、大元帥陛下ニハ宮中正殿ニ於テ當聯
隊ノ爲ニ軍旗ヲ親授セラレタリ

午後九時陸軍省發自勤車ニテ参内シ今九時三十分ヨリ親授式ヲ
行フ實施セラル先ツ西溜ノ間拜觀ノ後正殿ニ於テ予定ノ如ク
親授式ヲ行フ實施、一日退下陸軍省ニ於テ聯隊及旗手ハ
正装ヲ着用誘導將校以下ハ軍装ニテ午後一時再ビ坂下
門ヨリ参内ス、朝方降タル細雨モ止ミ候ニ賜ラントス、軍旗
ノ將來ヲ祝福セラルカ、姉ヲ清純ヲ讃歎セハナリヌ

午後三時陛下ニハ御正装ニテ出御皇族陸軍大臣軍事參議官

參謀統長其他、高位顯官玉座、左に侍立、侍從武官（陸軍
案、軍旗ヲ捧持シ侍從武官長ニ呈ス、侍從武官長軍旗ヲ
受ケ玉座右斜正面ヨリ參進捧呈ス、

聯隊長御前ニ參進玉座下ニテ敬禮シ軍旗ヲ捧受シテ旗手
ニ渡ス、

陛下更ニ左ノ勅語ヲ聯隊長ニ賜ヒ式部長官、奏請ヨリ入御シ給フ

勅語

歩兵第百五十聯隊、爲ニ軍旗一旆ヲ授ク

汝軍人等協力同心シテ益々威武ヲ宜揚シ我帝國ヲ保
護セヨ

斯ク聯隊長旗手、捧ケル軍旗ヲ誘導シテ式場ヲ退出シ而テ
間ニテ侍從長ヲ經テ勅語ヲ聯隊長ニ下賜セラル

聯隊長ハ茲ニ於テ一端退場シ奉答書ヲ捧ヤリ入場シ陸軍大臣

立會ノ上侍從武官長ノ前進ニ謹ミテ奉答ニ奉答書ヲ侍從
武官ニ經テ奉^呈入

奉 答 文

敬 ● テ

明勅ヲ奉ス 臣等 死力ヲ竭シ 誓リテ國家ヲ保護セ

昭和二年十月十八日

歩兵第百五十聯隊長

陸軍歩兵中佐<sup>從五位
勳四等</sup> 山 本 重 徳

侍從武官ノ誘導ニ依リ軍旗御軍寄階上ニテ階下ニ居ル軍旗誘導
將校及ニ護衛下士官ノ敬礼ヲ受ケタル後一旦西ニテ門ニ入り更ニ侍從
武官ノ誘導ニ依リ軍旗御軍寄ヨリ聯隊長前行正湖ヨリ退出
聯隊長ハ電報ヲ奉シ軍旗拜受テ師團長旅團長ニ報スルト共ニ在松本聯

隊長代理及補充隊長を告連す

同日午後五時半より参列將校一同陸軍大臣官邸・杉山陸軍大臣が招宴を接し左の祝辭を受け出征を閉し極メテ懇切ナル激勵アリ一同感涙す

皇軍ハ北支ヲ席捲シ上海戦線モ亦戦況我レニ有利ニ進展セシトスル時更ニ新軍旗ヲ親授セシレ近ク征途ニ上リシヲ以テ聖旨誠ニ深遠シテ聯隊長以下ノ任務ヲ突ニ重シ茲ニ軍旗拜受ヲ祝福スルト共ニ輝マロシキ武勲ヲ祈ル

同日午後十時四十五分新宿駅發歸營ノ途ニ就ク

軍旗拜受式次第

午後一時四十分元帥(陸軍大將)陸軍大臣、軍事参議官(陸軍)参謀總長、教育總監、参内西端ノ間ニ参連ス

但服装正装、階級諸員大禮服正装

次ニ諸員正殿ニ参進ス御座ノ左方ニ侍立ス

次ニ天皇御正装ニテ正殿ニ出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從侍從武官長

侍從武官御後ニ候ス

次ニ聯隊長聯隊旗手ヲ從ヘ御前ニ参進ス

次ニ侍從武官長軍旗ヲ上ツル

次ニ天皇軍旗ヲ聯隊長親授ス

次ニ聯隊長軍旗ヲ聯隊旗手ニ授ケ

次ニ勅語アリ

次ニ軍旗(聯隊旗手捧持)敬禮ヲ行フ

次ニ天皇入御 儀奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

田中命令

十月十八日

歩兵准尉 中條 寧富

歩兵伍長 野澤 恒俊

同 三澤 瑞穂

歩兵上等兵 有賀 義一

同 小松 三平

同 大橋 寅藏

同 清井 順三

右者暗號教育修習ノタメ十八日正寺迄ニ宇都宮市十四師團ニ

到ル可シ

一 明十九日侍従武官御差遣ニ関シ別紙(一)ノ通り心得ヲ可シ

一 明十九日軍旗拜受ニ関シ別紙(二)ノ通り心得ヲ可シ

一 歩兵軍曹 永井 勘

(74)

0029

右ノ者步兵第百五十聯隊要員トシテ近衛步兵第四聯隊ヨリ配
屬三村ヲ聯隊本部附テ命リタ

本面應召要員七ニ由リ而即前歸郷者ニハ名入隊者六九六名
聯隊本部ハ隊員一ハ名ヲ付テリ之ヲ為前隊員ニハ隊員五〇四員トシテ

徽察馬匹九四頭、内聯隊本部二九頭

十月十九日
晴天
於官村町聯
隊本部

午前六時三十分官民多数ノ奉迎裡ニ軍旗松本驛着、直ニ自動
車ニテ步兵第五聯隊補充隊ニ到リ、當日ハ上司ノ注意ニ依リ軍隊
諸列ヲ整ヘ

午前八時ヨリ步兵第五聯隊當座ニ於テ軍旗拜受式ヲ舉行ス

此日天氣清朗ニシテ晩秋ノ空澄々ニ渡リ特設聯隊ノ將士新ニシテ軍
旗ノ元ニ一致團結國難打開ノ決意ヲ露顯ニ現ハシ南面整列ス
補充隊モ亦参列ス

軍旗ハ一旦聯隊長室ニ安置、上誘導將校護衛下ニ官ニ衛シテ聯隊

軍旗奉送ニ関スル細部ノ指示 昭和十二年十月十八日			
時刻	行	事	要
十月十八日 午前六時三十分 分松本駐着	松本駐三於ケ ル出迎		上長官ハ松本駐ニ出迎ヲナスモノトス 軍旗ハ駐長室ニ於テ旗手捧持、儘地方官衙 長ハ敬礼ヲ受ケ自動車ニ依リ隊隊ニ至リ一 時取隊長室ニ奉安ス
午前 六時五十分 駐	軍旗奉送		一 特設部隊及補充隊ハ營庭ニ南面縦隊横隊ノ 一線ニ集合、補充隊ハ特設部隊ノ後方トシ 總テ距離間隔ハ半減ス 二 機関銃中隊及歩兵砲中隊ハ徒歩編成トス 三 特設部隊指揮官 會田少佐 補充隊指揮官 原少佐 四 軍旗隊本部ヲ出テタル時ハ陸軍礼式附録 第三十三條ニ依リ敬礼ヲ行ヒ後軍旗台上ニ 立ル、此際軍旗衛兵ト交代ス 五 補充隊長軍旗ノ左側ニ於テ勅語ヲ奉讀シ次 テ特設部隊隊長奉答文ヲ奏シ終テ部隊ハ面ヒ 軍旗ニ對スル敬礼ヲ行フ 六 分列 次テ特設部隊ハ軍旗ニ對シ分列式ヲ行フモノトス 七 訓示 特設部隊是位ニ着キタル後部隊長訓示ヲ行 分列式及訓示ノ間補充隊ハ其儘ノ態勢ニア ルモノトス 八 訓示終了後陸軍礼式附録第三十四條ニ依リ 軍旗奉送ヲ行フ 九 軍旗ハ隊隊長室ニ奉安ス 十 軍旗奉送前軍旗衛兵ハ護衛下士官ト交代ス
			一 服装及馬装 儀式ノ場合ニ於ケル軍 装トシ一般略服ヲ佩用 スルモノトス 二 其他 (1) 各部隊ハ午前六時 三十分迄ニ整列ヲ終 ルモノトス (2) 各部隊ノ型列位置並 列外者ノ位置ハ現場 ニ於テ指示ス (3) 應召員取扱委員、 業務ハ第一回應召 者ニ限リ雨天ノ場 合ニ準テ留置絶えざる (4) 特設部隊乗馬者ニ 要スル馬匹ハ補充隊 乗馬ヲ乘馬委員ニ 於テ計出充當スルモ ノトス (5) 來賓ハ將校集合所 委員ヲ担任スヘシ (6) 附添人及面會人ハ 圓番司令ニ於テ取 締リヲナスヘシ

0031

正面、定位ニ侍リ、諸隊別、吹奏ヲ奉迎ス。
紫綬、旭旗、朝風ニ翻リ、壯嚴、神威當ニ漲リ、肝銘無限ナリ。
即チ歩兵第百五十聯隊補充隊長山崎中佐、恭シク勅語ヲ奉
讀スレバ、歩兵第百五十聯隊長敬テ奉答文ヲ奉ス。
次テ軍旗ニ對シ、聯隊長指揮、下ニ分列式ヲ行ヒ、聯隊ノ志氣大
ニ振ヒ、團結愈々固ク、分列式後、聯隊長ハ聯隊ニ還列ヲ作ラ
シメ、軍旗ノ傍ニテ左ノ訓示ヲナス。

訓示

昨十八日、聯隊長ハ旗手ヲ從ヘ、参内シ、宮中正殿ニ参進シ、
大元帥陛下ヨリ、軍旗ノ御親授ヲ賜ハリ、優渥ナル勅語ヲ賜ハリ、
皇軍ハ皇軍タル所以ヲ肝銘スルト共ニ、光榮感激限リナシ。
今ヤ皇軍ハ北支ヲ席捲シ、上海方面亦戰斗漸次進涉セント
スル秋、聯隊ノ勤員ニ將ニ完結セントシ、出勤ノ日目前ニ迫ル。

皇軍將兵皇軍ノ皇軍タル所以ヲ銘記シ宏遠ナル聖旨ヲ深
ク奉體シ愈々團結ヲ強固ニシ死力ヲ盡シテ軍旗ノ向フ所献
身殉國ノ至誠ニ邁進シ我兄弟聯隊タル勇猛遠山部隊ノ
平漢線ニ於ケル赫々タル武勲ニ劣ラザルコトヲ期スベシ

一此日勤員中ナルモ聯隊一同ニ祝詞ト祝葉ヲ加給シ光榮ヲ記念
ス

一午後一時時役武官後藤砲兵中佐ヲ勤員業務御視察ノ
タメ御差遣アラセラレ左記御沙汰ヲ傳達セラレ

御沙汰

天皇陛下ニ於テセラレテハ第百十四師團ガ今回事変地へ出勤
スルニ付キ其ノ勤員状況実視ノタメ時役武官ヲ着遣ハサ
レ時ニ師團長以下將兵一同我武風ヲ宣揚スルト共ニ氣候風
土ノ異點ニ耐ヘ自愛シテ克ク其ノ責務ヲ全クスル様申付ヘヨ

御沙汰マラセラル

次デ聯隊長狀況報告ナス

狀況報告

今般特設部隊ノ動員ヲ令セラレ、ニ方リ畏クモ侍從武官ヲ御差遣アラセラレ優渥ナル御沙汰ヲ賜ヒ親シク動員業務ヲ御實施マラセラルハ將兵一員恐懼措ク所ヲ知ラズ思ハル大無量ニ感激致スルミデアリマス、

殊ニ昨十八日歩兵百ヲ聯隊ノ初メ軍旗ヲ親授セラレ本日拜受式奉行、聖旨ヲ傳達致シマシタ茲ニ將兵一同、志氣大ニ揚リ報國ノ赤誠ヲ燃ユルモノガアリマス

以下勲賞部隊ノ戦力ヲ就テ申上マス

今次勲賞部隊ノ編成ハ時局ノ必要ニ基キマシタ勲賞部隊要員幹部ナレ月二十ハ日ヨリ臨時演習召集シ致シマシタ戦時命課ニ基ク職責シテスル

0034

徳性ヲ涵養シ技能ヲ附興増進スル目的ヲ以テ實施サレマシテ未ダ其ノ教
育半バニシテ動員下令トナシタノデアリマスカラ召集同將兵一同良ク時局ノ
緊急ヲ自覺シ精勵恪勤教育目的達成ノタメ多大ノ努力ヲ致シマシタ
結果著シキ其ノ能力ヲ向上シ且團結ノ基礎ヲ鞏固ニシ得マシコトハ誠ニ
喜バレキコトデ御座リマス

中隊長以下ノ幹部ハ豫後備役デアリマシテ中隊長ハ大部分ハ中少尉ヲ
以テ充當致シテ當リマス、(大尉 中尉 少尉 各一員)
然レトモ一般ノ精兵ニシテ志氣極メテ旺盛ナル者モ亦幾シキヲ其ノ團
結鞏固デアリマス。

下士官以下ハ後備役第一次第二次其ノ大部ヲ占メタルモ應召員下士官
以下(中隊長後備役第一次ハ五員、後備役第二次ハ九員、)滿洲事変歴戦者相繼
數アリマシテ既ニ實戦ノ經驗ヲ有シ誠ニ力強イモノアリ又
本團以テ人員充足ヲ終了致シマシ。

然レトモ特設部隊ノ素質ニ鑑ミ先ハ幹部ノ性格陶冶ニ他ハ精神の團結
ノ強化ヲ計リ尚勤員中ヨリ休暇ヲ求メテ兵ノ練成ニ努力致シ居マース

馬匹ハ衛成地近傍ヨリ之ヲ徵發シ昨十八日其ノ充足ヲ給ヘマシタ

今次充
馬隊

馬ハ銃ヲ牝馬デマリマスカ比較的ハ格性質共ニ良好デマリマシテ其附従モ概
ホ適當ナルモノヲ充足備マシタ

諸隊ノ裝備ハ重火器ニ於テ機關銃、步兵砲共ニ聯隊ノ約半數ナルト對戰
軍火器ノ裝置ヤクト輕擲彈筒ナルトニ依リ其用聯隊ニ比シ稍遜色ナル
様感セラレマスカ兵員ノ素質上却ツテ過去ノ教育ニ恰適ニ而モ實戰ノ結

驗ヲ有スルヲ以テ之レカ運用ト相付テ戰力ノ發揚ニ遺憾ナキヲ期スモノト思

考致シマス尚上司ニ於テハ山砲聯隊機關銃ヲ増加セラル、計畫ナルヤニ

付キ果シテ然ラバ一層戰力ヲ充實シ得ヘシ

尚逐次新編成ニ基ク教育ノ徹底ニ努メ以テ後日新ナル兵器ノ支給

セラル、ニ當リ其徳性ノ發揚ニ遺憾ナキヲ期スル覚悟デアリマス

今次動員下令以來編成担任補充隊將兵一同八日夜熱誠動員業務
 遂行ニ當リ眞ニ滑肉ノ兄弟ノ出征ヲ激勵スカ如キ心情ヲ以テ協助援
 助セラレ小職部下一同感謝ニ不堪所ニシテ為ニ動員業務天候リ支障
 等アリタルニ不拘些少ノ波滯ナリ極メテ進捗明ニ十日動員完結後直
 テニ出勤ニ支障ナキヲ確信シタルモ尚出勤ノ準備ニ萬全ヲ期シツハアリ
 茲ニ新軍旗ヲ捧ニ臣等一同聖旨ヲ奉体シ眞ニ死ヲ喝レ誓ワテ皇軍武
 成ヲ宣揚シ益々奮勵加シテ以テ聖恩ニ副ヒ奉ラムコトヲ期シマス
 歩兵第百五聯隊長 山本 重 惠
 美談
 補充隊應召中ノ角田軍医中佐ノ母ハ玄ル九月十五日ハ十七オヲ
 以テ死去致シマシタ處中佐ハ絶對ニ秘シテ語ラガルヲ以テ誰モ其ノ
 死ヲ知ラヘンテ居マシタ隊長中佐對シ母ノ病狀ヲ問ヒ歸ル時始メ

テ其ノ死亡セルコトヲ告ギリルニ依リ其ノ事實ヲ分明致シタル隊長ハ中
佐ニ對シ歸省ヲ薦ノマシタカ中佐ハ歌ニ首ヲ詠ミテ心情ヲ明ラカニシ涙ニ
歸ラウトモセズ救々トシテ其ノ業務ヲ續行幾多將兵感激リ勦ト
トナワテ居リマス、

親を捨て身を捨て、こそ國の爲め

盡く誠の投かりけり

苦しきも色にも見せぬ親心

永久に盡くせぬ情かりけり

美談

長野縣北安曇郡神城村輻重兵特務兵横川朝次ハ今朝、赤呂三
際レ歩兵第百五十四聯隊本部付ニ編入セラレマシテ勤勞中リ此勤
員第四日ニ於テ先齡七十オノ父ガ餅ヲ喉ニカヘテ急死スルノ悲報ニ
接シアリタルノデ幹部ハ休暇ヲ與ヘントシアリタカ村人ハ出奔シ際ノ覺

0038

略ヲ速ニテ頑トシテ之ヲ音シマセシメテ更ニ一日ノ忍引服喪ヲスルコトヲ
勤員ノ多忙中勤務ヲ休ムハ遺憾トシ自ラ進ミテ繁劇ナル業務ニ
服シテ居リマス此ノ如ク應召ニ際シ父母妻子ノ死ニ當リ敢然トシテ勤
員服シタル美談ハ枚挙ニ暇ナキ状況デアリマス

日々命令

歩兵少佐 増澤 可也

歩兵上等兵 藤森 義国

右ノ者宇都宮留第十四師團師令部ニ命令受領ノ爲二十日正午
迄ニ同部ニ到ル可シ、但シニ泊トス、

山本部隊装檢査實施ニ關スル命令

侍從武官御差遣時間変更ノ件

一勤員第七日、應召員六八三名、内即日帰郷四二名、入隊者六四二名

聯隊本部入隊者十九名、徴發馬匹聯隊本部へ十六頭

侍從武官御差遣時間変更ノ件

昭二二、二、二九
歩五〇補

本十九日侍從武官松本驛着午前十時四十分ヲ午後一時着ニ

変更セラル從ツテ諸行事狀況報告ヲ午後一時十五分、動員狀

況實施ヲ午後一時四十五分ヨリニ変更ス、

山本部隊裝備検査ニ關スル命令

十月十九日

一、明二十日午後三時ヨリ山本部隊、裝備検査ヲ行フ

依テ左ノ通り心得ヲ可シ

一、山本部隊ハ當日午後三時練兵場ニ要圖、如ク整列スベシ、

二、軍旗中隊ハ第一中隊トス、午後二時三十分マデニ聯隊本部前

ニ集合スベシ、

三、服裝馬裝ハ軍裝ニシテ略緩ヲ佩用シ大下行李ハ所定ノ材糧

ヲ積戴スベシ

十月二十日
晴天
於宮村町聯
隊本部

4. 立會者ハ動員計畫日課豫定表ニ依ル

5. 裝備検査後、分列式實施ニ付イテハ、別ニ指示セラレ

◎ 侍從武官御差遣ニ關スル細部ノ指示ハ附表第三ニ依ル

◎ 山本部隊軍裝検査、タノ、整列要圖ハ附表第一ニ依ル

一 本日ヲ以テ動員完結ス依テ午後三時ヨリ歩兵第五聯隊ノ
練兵場ニ於テ軍裝検査ヲ實施ス

一 本日師團長着任ニ當リ團下一般ニ左ノ如キ訓示アリ

訓示

時局愈々進展シテ皇軍ノ威武將ニ北支ヨリ中支ヲ壓セントスルノ情
勢ニアリト雖モ國際關係ハ益々急迫ヲ告ケ暗雲東亞ノ天地ニ漲リ
皇國ノ安危今ヲ以テ師團統率ノ勅命ヲ拜シ諸子ト共ニ暴戾支
膺懲ノ聖戦ニ参スルノ機ヲ得タルハ眞ニ欣快トスル所ナリ

0041

諸子ハ大命ニ依リ近ク故山ヲ高レ勇躍征途ニ就カムトス寔ニ武人
ノ本懷ニシテ榮誉ト謂フベシ

本職ハ茲ニ衷心ヨリ壯行ヲ祝福スルト共ニ聊カ所懷ヲ述ベテ要望ス
ルトフロアラハトス

一、皇軍使命ノ達成ニ徹底スベシ

抑々皇軍ハ建國ノ本義ニ基キ皇道宣布東洋ノ和平確保ヲ以
テ其ノ使命トス、即チ諸子ハ克ク五体ノ聖諭ヲ体得シ以テ一意皇
軍ノ使命達成ニ徹スベシ

一、上下一致團結和親ヲ基トスベシ

凡ソ軍隊ノ精強ハ上下一体トナリ一途方針ニ嚮ヒ一貫シテ初メテ之ヲ
庶幾レ得ベキモノナリ、諸子ノ多クハ暫ク兵營ヲ高レ而モ五ニ親
炙スルノ機少キテ盡征途ニ上ルノ実狀ニアルヲ以テ速ニ其ノ親睦
ヲ圖リ團結ヲ鞏固ニシテ和氣和緩々ノ中ニ各其職務ニ邁進ス

ベシ

一、各自各々其ノ本分ニ基キ服従ヲ確立スベシ

凡ソ服従ハ軍隊成立ノ本義ナリ、故ニ諸子ハ年齢ノ多ク少ニ係ハル
事ナリ、亦次第令セラレタル順位令ニ基キ服従ヲ確立シテ以テ
軍紀ノ維持ヲ確實ナラシムルヲ要ス、

一、各自衛生ニ注意シ健康ヲ保全スベシ

諸子、赴ク戦場ハ氣候風土著シク不良ニシテ瘡瘍、地ナリ宣シク
自重自愛健康ニ留意シ、尙モ諸子ハ戦場ニ在リテ、
事ナキヲ期ス可シ、

一、後顧ノ憂ヲ去リ一意武威ノ發揚ニ邁進スベシ、

諸子ハ上下一体軍民一致ノ燃エルカ如キ後援ニ信賴シ宣シク後顧ノ

憂ヲ去リ一意光輝アル皇軍ノ武威ヲ發揚セムコトヲ期スベシ、

之ヲ要スルニ諸子盡忠報国ノ誠心ハ發シテ以テ東洋ノ平和ヲ確立

0043

シ建國ノ大理想ヲ達成スル所以ナリ

今ヤ故山ノ天地ハ秋漸マク深カラハトス、諸子ハ善ク本職ノ意ノ有スル
所ヲ体シ関東健児ノ面目ヲ發揮シ

上聖旨ニ副ヒ奉ラムト共ニ下銳後ノ赤誠ニ對ヘムフトヲ期ス可シ

昭和十二年十月二十日

第百十四師團長 末松 茂治

日々命令

聯隊本部歩兵軍曹 太田 政治

第大隊本部歩兵軍曹 土屋 喜重

第一中隊同 笠原 利次

第二中隊同 加藤 今二

第三中隊同 田畑 徳次

第四中隊同 折井 充

第天隊本部	宮下喜三雄
第五中隊同	有賀忠敬
第六中隊同	礎村四郎
第七中隊同	水谷宮雄
第八中隊同	青木貞義
第九中隊同	町田昂
第十中隊同	中原利一
第十一中隊同	三原利次
第十二中隊同	森村江喜二
第十三中隊同	秋山貞司
第十四中隊同	林友三郎

0045

歩兵砲隊歩兵軍曹 伊藤 昌 重

右頭書通り副分任官ヲ命ス

歩山輪第一號

山本部隊命令

鐵道輸送準備、爲左、通り心得ヲ可シ

(1) 聯隊荷物係將校 矢島隊 浅野少尉

目 馬匹係將校 相原隊 伊藤少尉

右、者午前八時マデニ停車場司令部ニ到リ海野少佐ト連絡スベシ

(2) 各隊荷物係ハ明ニ一日午前中ニ聯隊本部各大隊及ヒ歩兵砲

隊毎ニ松本駅貨物ホム廣場ニ積集シ積込ニ準備ヲナスベシ

(3) 左記積込ニ便役ハ明ニ一日午後一時マデニ松本駅ニ集合シ聯隊荷

物係浅野少尉、指揮ヲ受クベシ

0046

十月二十一日
晴天
於宮村町駐
隊本部

停車場荷物積込使役差出区分表

區分	下士官	兵	計
R	1	5	6
I	1	44	45
II	1	44	45
III	2	43	45
IA		4	4
計	5	140	145

人馬現況

歩百五十聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乗馬	輓馬	駄馬	計
ハ	一二	一五四	一七四	一三	五四	七	七四

◎歩兵百五十聯隊將校職員表ハ附表第四ニ依ル

一、山本部隊長ハ出征將兵武運長久祈禱、為各大隊長ヲ率ヒ諏訪

神社ニ参拜ス

山本部隊長ハ出征將兵武運長久祈禱、為各大隊長ヲ率ヒ諏訪神社ニ参拜ス

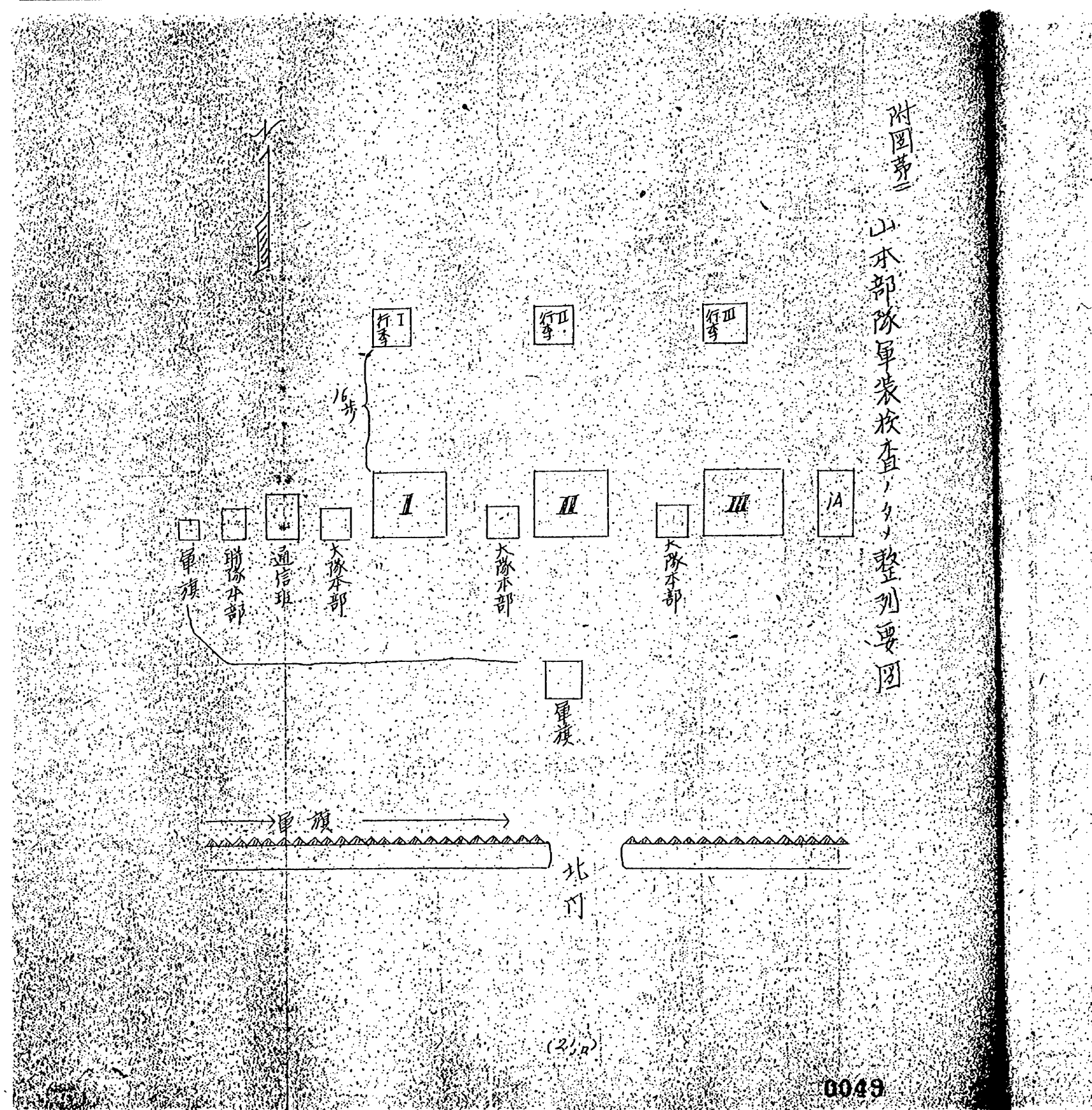
侍從武官御差遣ニ関スル細部ノ指示

時刻	行事	要綱	服装
十月十九日 午前十時 至 十四分松本 驛 着	御出迎	特設部隊長、補充隊長、聯隊 區司令官、憲兵分隊長、陸軍 病院長ハ松本驛ニ御出迎ヘナ スモノトス 將校（補充隊ヲ含ミ動員業 務實施中ノモノヲ除ク）ハ表 門ニ整列シ御出迎ヘデナスモ ノトス。	一 隊伍ニ列セザル 軍装トシ一般ニ 略綬佩用トス ニ 動員業務實施 中ハ勤務中ノ服 装トシ略綬ヲ 佩用スベシ
午前十時 至 三十分	狀況報告	場所、將校集會所 特設隊長、聯隊區司令官 地方長官ハ口頭ヲ以テ要項 ニ付キ御報告申上細部ハ 實施途中ニ於テ御説明申 上ケルモノトス。	
自午前十二時 至 午前十二時 四十分	動員狀況報 告	一 應召員取扱ノ景況 ニ 裝蹄實施ノ景況 三 徵發馬匹ノ狀況ヲ御實施 特設部隊長御案内申上ケ各 大隊長、隨行スルモノトス 各委員長ハ實施ノ概要ヲ御報 告申上ケルモノトス	
一 松本驛ヨリ聯隊ニ至ル門自動車行進順序左ノ如シ 憲兵分隊長 侍從武官 衛戍司令官 屬官 各部隊（官衛）長 聯隊副官 衛戍司令官 屬官 各部隊（官衛）長 二 御實施後、淺間山石川旅館ニテ御休憩、後午後三時十四分松本驛御出立セラル、 御出迎ノ際、各官ハ御見送りヲナスコト			

昭和十二年十月十七日

松本衛戍司令官

山本重憲



昭和十二年十月 日

0050

歩兵第百五十聯隊本部編成表

十月二十四日現在

官等級	職名	氏名	官等級	職名	氏名	官等級	職名	氏名
歩兵中尉	聯隊長	山本重忠	上等兵	通信手	水谷五百穂	上等兵	通信手	今木幸盛
歩兵少尉	副官	増澤可也	上等兵	通信手	丸野菊男	上等兵	通信手	児玉正
歩兵少尉	副官	滝澤壽	上等兵	通信手	上野善郎	上等兵	通信手	堀内廣一
同	旗手	小山長亮	上等兵	通信手	藤本正栄	上等兵	通信手	北原重治
歩兵准尉	通信班長	中條寧富	一等兵	通信手	伊藤保治	一等兵	通信手	高木存
歩兵准尉	五期掛	小澤庄三	上等兵	通信手	井口茂一	上等兵	通信手	高木存
歩兵准尉	獸醫	山崎照門	上等兵	通信手	森山要	上等兵	通信手	高木存
砲兵准尉	技術	櫻井米治	一等兵	通信手	井口茂一	一等兵	通信手	高木存
歩兵曹長	甲書記	濱恒晴	上等兵	通信手	片岡幸雄	上等兵	通信手	高木存
歩兵曹長	乙書記	永井勘	上等兵	通信手	有岡定一	上等兵	通信手	高木存
同	同	太田政治	上等兵	通信手	平島清一	上等兵	通信手	高木存
歩兵伍長	連係書記	清水国男	上等兵	通信手	北澤義盛	上等兵	通信手	高木存
歩兵伍長	五期係	野澤恒俊	一等兵	通信手	下柳泰久	一等兵	通信手	高木存
同	通信掛	西山徳三郎	上等兵	通信手	細川幸平	上等兵	通信手	高木存
同	同	中川久一	上等兵	通信手	伊藤保治	上等兵	通信手	高木存
同	同	平出一雄	上等兵	通信手	宮本至	上等兵	通信手	高木存
同	同	宮下福吉	上等兵	通信手	小根原一策	上等兵	通信手	高木存
歩兵伍長	大行李長	横川朝治	上等兵	通信手	金谷美雄	上等兵	通信手	高木存
上等兵	旗手	伊藤孝天	上等兵	通信手	田中寅一	上等兵	通信手	高木存
同	同	堀内敏	上等兵	通信手	常田樹	上等兵	通信手	高木存
同	同	小川宗雄	上等兵	通信手	大谷直樹	上等兵	通信手	高木存
同	同	坪田輝雄	上等兵	通信手	高野清美	上等兵	通信手	高木存
上等兵	傳令	高氏乾二	上等兵	通信手	佐々木藤雄	上等兵	通信手	高木存
同	同	小澤常三	上等兵	通信手	高山理平	上等兵	通信手	高木存
同	同	清澤光三	上等兵	通信手	山田次郎	上等兵	通信手	高木存
同	同	依田義三	上等兵	通信手	遠藤俊一	上等兵	通信手	高木存
同	同	藤森義治	上等兵	通信手	望月善一	上等兵	通信手	高木存
同	同	有賀良治	上等兵	通信手	細川幸一	上等兵	通信手	高木存
同	同	安藤英喜	上等兵	通信手	高木一幸	上等兵	通信手	高木存
一等兵	通信手	小野忠八	上等兵	通信手	池田義長	上等兵	通信手	高木存
上等兵	通信手	本村清重	上等兵	通信手	鈴木秀雄	上等兵	通信手	高木存
一等兵	通信手	岡村一郎	上等兵	通信手	宮下元信	上等兵	通信手	高木存
一等兵	通信手	金子高喜	上等兵	通信手	小田重治	上等兵	通信手	高木存
一等兵	通信手	高松安雄	上等兵	通信手	代林辰雄	上等兵	通信手	高木存
一等兵	通信手	上原淑夫	上等兵	通信手	伊藤利男	上等兵	通信手	高木存
上等兵	通信手	大月英雄	上等兵	通信手	竹澤春人	上等兵	通信手	高木存
上等兵	通信手	五味雄	上等兵	通信手	小出忠治	上等兵	通信手	高木存
上等兵	通信手	藤原和芳	上等兵	通信手	宮崎正敏	上等兵	通信手	高木存

十月三日
晴天

山本部隊鉄道輸送ニ関スル命令
十月三日
山本部隊本部

山本部隊ハ明日三日出発征途ニ登ラントス依テ尤ノ通リ心得フベシ

ハ曩ニ示セル先發人員ハ司令北澤大尉ノ指揮ヲ以テ本三十一日午後七

時分松本驛発明三十一日午前十時迄ニ大阪築港磁泊場司令

部到着セド先遣參謀ト連絡シ宿營輸送資材ノ受授等

關スル諸準備ヲ實施スベシ

ニ輸送計畫尤ノ如シ

順序	輸送指揮官	輸送部隊
第一次	歩兵少佐 會田 重	ロ大隊 (ニ中隊欠)
第二次	歩兵中佐 山本 重真	山本部隊本部 (ロ大隊ハニ中隊)
第三次	歩兵少佐 児森 高植	ハ大隊 (ニ中隊欠)
第四次	歩兵少佐 大塚 宏	ニ大隊 (ニ中隊欠)
第五次	歩兵大尉 桐原 要作	ホ部隊 ハ大隊ノニ中隊 ニ木隊ノニ中隊

三、輸送ノタメ勤務員左ノ如シ

聯隊荷物係將校 矢島隊 浅野少尉

合 馬正係將校 桐原隊 伊藤少尉

細部ニ付イテハ昨ニ日山本部隊命令ニ依ル可シ

四、山本部隊ハ明ニ日午前五時(第二次以後輸送部隊ハ午前六時
歩五口當庭ニ集合スベシ

第三中隊ヨリ軍旗誘導將校及下士官ヲ午前六時マデニ聯隊
本部前ニ差出スベシ 但シ第一次第二次出發ノ服装トシ第三次
以後ハ軍装ニシテ背囊装具ヲ除ク集合場ハ現場ニ於テ指
示ス

五、聯隊ノ營門出發ハ午前六時十分トス第三次以後ノ部隊ハ
出發後其相當地附近ニ於テ通時留地ニ至リ爾後ノ出發ヲ準備
スベシ 但シ第三時以後出發ノ為集合地ハ深志公園トス 一般ニ食

0053

ヲ携行スニ馬糧ハ所要數ヲ列車ニ積載スベシ

山本部隊長

部隊長注意事項

一、機密ノ保持ニ注意スル事

二、鐵道輸送殊ニ出發ノ間際ニ整然ト輸送軍紀ヲ守ル事

三、危害豫防ニ特ニ注意スル事

四、分配書類ハ順序ヲ立テ、讀ム事

五、馬匹ノ衛生、給與ニ對スル關心薄イト思ハルニ依リ特ニ注意ノコト

六、衛生ニ付テ

三等傷等ノ患者ハ大阪ニ於テ一番多ク出スヲ例トスルヲ以テ注意ノ事

歩矢伍長 三澤 瑞 穂

同 堀田 義之助

歩兵上等兵 大津 照治

同 鈴木 喜作

右四名本日ヨリ聯隊本部勤務ヲ命ス

歩山輸第ニ號 第ニ次輸送部隊指揮官命令

一、第ニ次輸送部隊ハ午前八時五十分松本停車場貨物集積場

ニ集合人員係ノ区署ニ依リ午前九時ヨリ乗車ホームニ入場シ、

喇叭號音依リ乗車スベシ

ニ、人員係トシテ尤記人員ヲ明ニシ日午前七時停車場司令部ニ差

出シ同司令官ノ指示ヲ受ケ午前九時迄ニ乗車準備ヲ完了ス

ベシ

一、山本部隊本部 小澤 少尉

同 下士官 二

二、野澤部隊 下士官 一 兵 一

0055

山岸部隊

下士官一 兵一

2. 衛兵トテ山岸部隊ヨリ下士官一、兵一、兵六、喇叭手一ヲ

(計七)午前九時乗車ホムニ出シ人員係ノ指示ヲ受ケル

4. 馬匹ハ午前十時松本停車場貨物ホムニ索運シ山本部隊

馬匹係ノ伊藤少尉ノ區署ニ依リ午後一時迄ニ積込ミヲ完了

スベシ

5. 乗用自轉車及將校行李ハ同日午前八時迄ニ貨物ホムニ

差出シ員數表ト共ニ荷物係淺野少尉ニ引渡スベシ

輸送指揮官 山本部隊長

午後四時ヨリ松本市源也ノ學校ニ於テ縣下官民合同山本部

隊ノ爲メ盛大ナル壯行會ヲ催サレ准士官以上參列、知事ヨリ敬勵

ノ挨拶アリ聯隊長之ニ答ヘ謝意ヲ表シ部下一同ニ對スル銃後

托ス